

県内経済の動き

基調判断 緩やかに持ち直している

製造業	→	一部弱含み	公共工事	→	持ち直している
大型小売店販売動向	→	横ばいの動き	観光	→	弱含み
乗用車販売動向	→	着実に回復	雇用	→	高水準で推移
住宅着工	→	横ばいの動き	企業倒産	→	低水準が続く

[直近の3カ月の変化の方向] → 上向き → 横ばい → 下向き

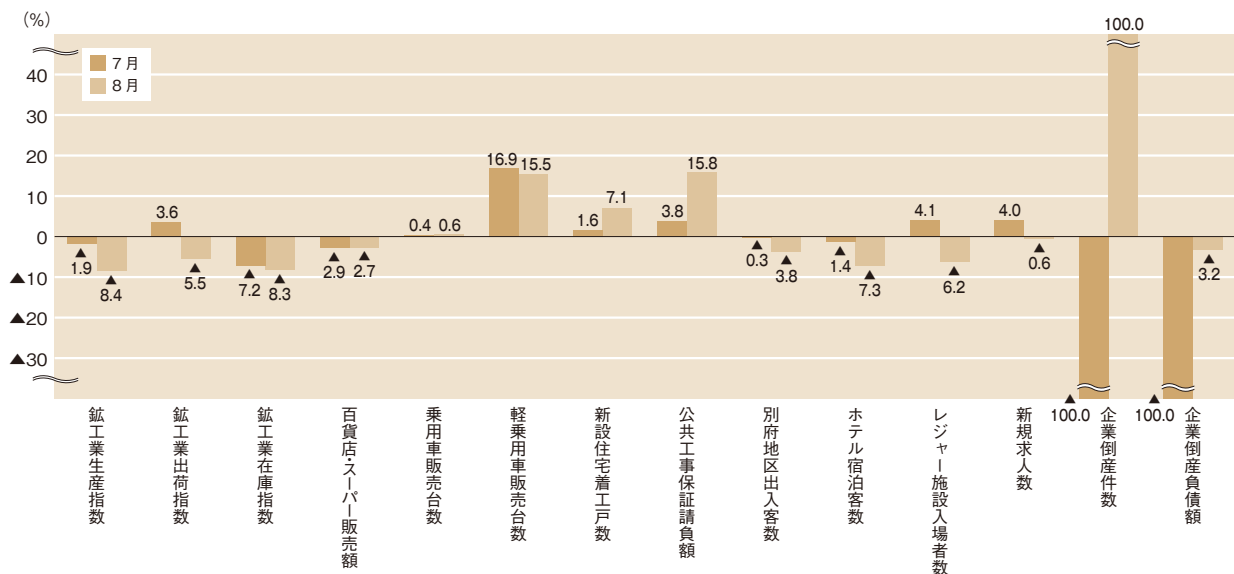
注) 1. 大型小売店販売動向は、百貨店・スーパー・専門量販店（家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター）の販売動向

大分県の主要経済指標の動き

	2016.8	9	10	11	12	2017.1	2	3	4	5	6	7	8
鉱工業生産指数	○	●	●	○	△	●	●	●	●	○	●	●	—
百貨店・スーパー販売額	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
乗用車販売台数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
軽乗用車販売台数	●	●	●	●	●	○	○	●	○	○	○	○	○
新設住宅着工戸数	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	●	○	○
公共工事保証請負額	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
別府地区出入客数	○	●	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●	●
ホテル宿泊客数	○	○	●	●	○	●	●	○	○	○	○	●	●
レジャー施設入場者数	●	●	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	●
新規求人数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
企業倒産件数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	●
企業倒産負債額	●	●	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○
プラス指標の割合	58.3	50.0	58.3	66.7	75.0	66.7	58.3	50.0	83.3	75.0	66.7	66.7	45.5

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化
 2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示
 3. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
 4. ホテルは県内主要宿泊施設の計、レジャー施設は別府および隣接地区の計
 5. 別府地区出入客数はJR別府駅、大分空港乗降客数、別府IC乗降車数計

県内主要経済指標（7月・8月分の前年同月比）



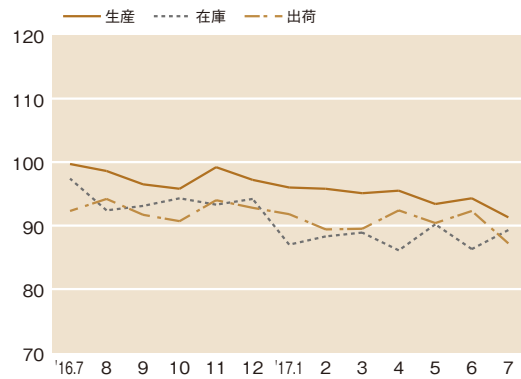
注) 1. 鉱工業生産・出荷・在庫指数は他の指標の各1カ月前の数字
 2. ホテルは県内主要宿泊施設の計、レジャー施設は別府および隣接地区の計
 3. 別府地区出入客数はJR別府駅、大分空港乗降客数、別府IC乗降車数計

製造業 ▶ 生産指数、2ヵ月ぶりに低下

県内の7月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、前月比3.2%低下の91.3と2ヵ月ぶりに低下した。前年同月比（原指数）は8.4%低下し2ヵ月連続で低下した。前月に比べて指数が上昇した業種は「窯業・土石製品工業」「食料品工業」「パルプ・紙・紙加工品工業」等の4業種であった。指数が低下した業種は「化学・石油製品工業」「非鉄金属・金属製品工業」「鉄鋼業」等の10業種であった。

鉱工業在庫指数（季節調整済）は、前月比3.5%上昇の89.3となった。

鉱工業指数の推移（2010年=100）

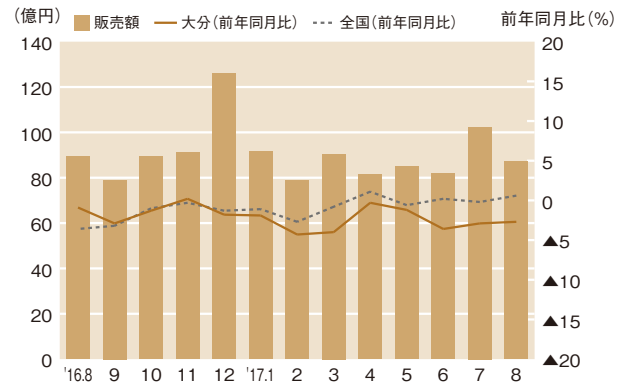


資料) 大分県企画振興部統計調査課「大分県鉱工業指数」

百貨店・スーパー販売 ▶ 販売額、9ヵ月連続減

8月の県内百貨店・スーパーの販売額は、87億28百万円、既存店ベースで前年同月比2.7%減と9ヵ月連続で前年を下回った。新規出店等を含めた店舗調整前では同2.2%減。家庭用品が好調に推移し、減少幅は前月よりも縮小した。商品別（店舗調整前）では、衣料品は前年同月比3.7%減、身の回り品は同1.1%増、飲食料品は同1.6%減、その他は1.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額（販売額は大分県）



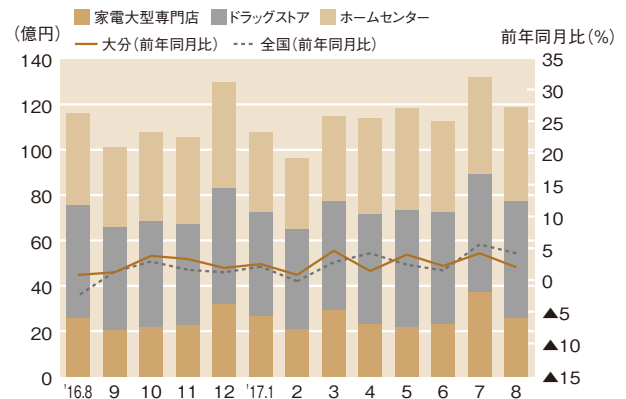
資料) 経済産業省「商業動態統計調査」

専門量販店販売 ▶ 販売額、29ヵ月連続増

8月の県内専門量販店（家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター）の販売額合計は118億37百万円、前年同月比2.0%増となった。

業態別にみると家電大型専門店（31店）は25億58百万円（前年同月比1.4%減）、ドラッグストア（118店）は51億94百万円（同4.7%増）、ホームセンター（67店）は41億9百万円（同1.5%増）となった。

専門量販店販売額（販売額は大分県）



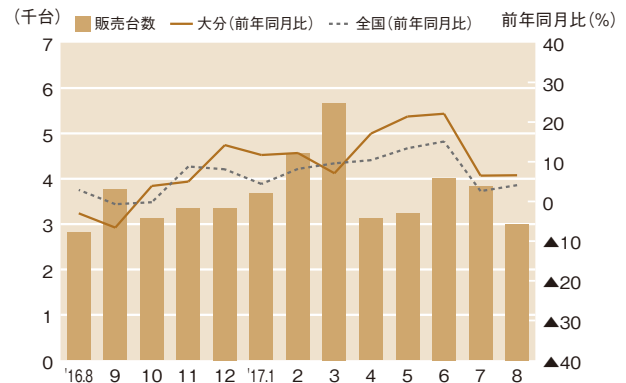
注) 販売額の前年同月比は全店の販売額の合計によるもの。
資料) 経済産業省「商業動態統計調査」

乗用車販売 ▶ 販売台数、11ヵ月連続増

8月の県内乗用車新車販売台数（普通、小型、軽乗用車の合計）は3,003台、前年同月比6.6%増と11ヵ月連続の増加となった。車種別にみると、普通乗用車は前年同月比5.8%減、小型乗用車は同7.4%増、軽乗用車は同15.5%増となった。

また、8月の中古乗用車登録台数（普通、小型、軽乗用車の合計）は5,050台、前年同月比2.2%増となった。

乗用車新車販売台数（販売台数は大分県）



資料) 大分県自動車販売店協会

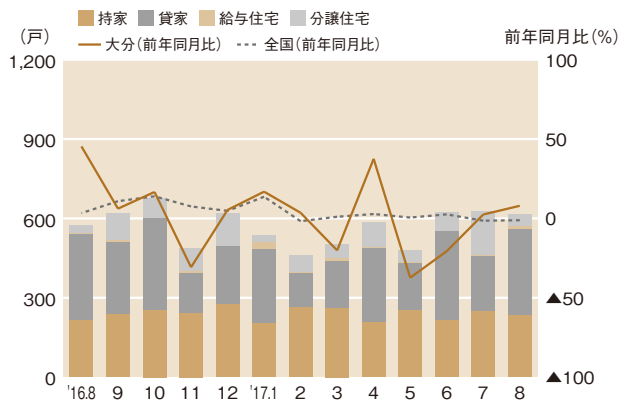
住宅着工 ▶ 着工戸数、2ヵ月連続のプラス

国土交通省の住宅着工統計によると、8月の県内新設住宅着工戸数は、前年同月比7.1%増の616戸と2ヵ月連続のプラスとなった。

利用関係別にみると、貸家は前年同月比0.6%減の326戸と減少したが、持家は同9.3%増の234戸、分譲住宅は同48.4%増の46戸と増加した。

市町村別でみると、大分市338戸、中津市104戸、宇佐市43戸、別府市29戸の順となった。

新設住宅着工戸数（着工戸数は大分県）



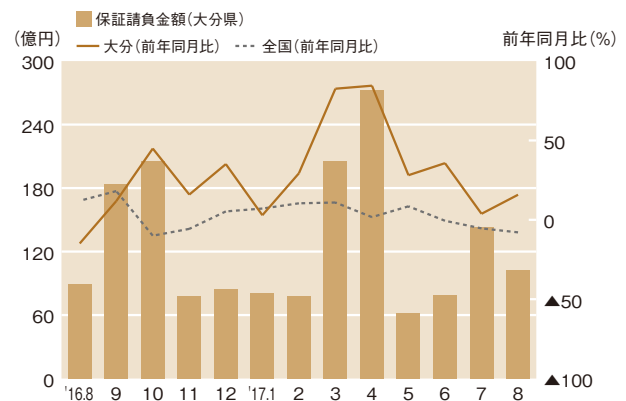
資料) 国土交通省「住宅着工統計」

公共工事 ▶ 請負金額、12ヵ月連続のプラス

8月の公共工事動向を西日本建設業保証の保証取扱状況からみると、件数は前年同月比2.8%増の333件となった。請負金額は同15.8%増の103億円と12ヵ月連続のプラスとなった。

請負金額を発注者別にみると、市町村は前年同月比9.6%減の39億円と減少したが、国は同16.6%増の11億円、独立行政法人等は同13.2%増の1億円、県は同47.0%増の51億円、その他の公共的団体は同12.3%増の2億円と増加した。

公共工事保証請負金額



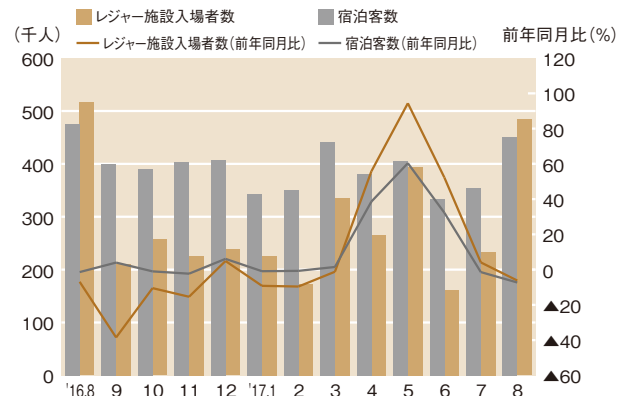
資料) 西日本建設業保証

観光 ▶ 宿泊客数、外国人客は好調も国内客が減少

8月の観光動態をみると、県内の宿泊客数（主要宿泊施設合計）は45万503人で、前年同月比7.3%減と2ヵ月連続のマイナスとなった。そのうち国内客は40万1,804人で同9.5%減、外国人客は4万8,699人で同15.0%増となっている。

別府および隣接地区のレジャー施設入場者数（7施設計）は48万4,127人で同6.2%減と5ヵ月ぶりにマイナスとなった。また、同地区の出入客数は同3.8%減となり、2ヵ月連続で前年を下回った。

宿泊客数、レジャー施設入場者数



注) 宿泊施設は県内主要宿泊施設合計、レジャー施設は別府および隣接地区7施設合計
資料) 宿泊客数は大分県観光統計調査、レジャー施設入場者数は当研究所調べ

雇用 ▶ 正社員有効求人倍率、過去最高値を更新

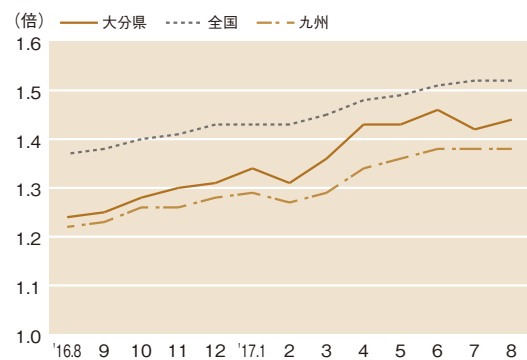
8月の県内有効求人倍率（季節調整値）は、有効求人数（同）が前月に比べ0.1%減少し、有効求職者数（同）が1.1%減少したことから、前月を0.02ポイント上回り1.44倍となった。

正社員有効求人倍率（原数値）は、1.07倍と過去最高値を更新した。

新規求人数（パートを含む、原数値）は前年同月比0.6%減と16ヵ月ぶりに減少した。

主要産業別では、「建設業」「製造業」「運輸業・郵便業」「サービス業」で増加し、「情報通信業」「卸売業・小売業」「宿泊業・飲食サービス業」「医療・福祉」「生活関連サービス業・娯楽業」で減少した。

有効求人倍率の推移（季節調整済）



資料) 大分労働局職業安定課「労働市場月報」

（参考）8月の安定所別有効求人倍率（原数値）

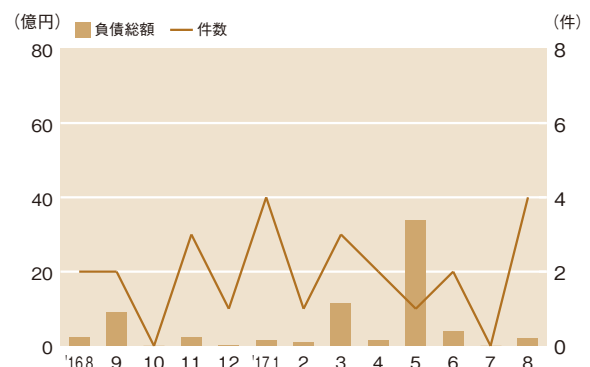
安定所	宇佐	大分	佐伯	中津
倍率	1.60	1.58	1.33	1.33
安定所	日田	豊後大野	別府	
倍率	1.27	1.17	1.14	

企業倒産 ▶ 件数、13ヵ月連続5件未満

8月の県内企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が4件、負債総額が2億15百万円であった。件数は前月比4件増、前年同月比2件増、負債総額は前月比2億15百万円増、前年同月比7百万円減となった。

原因別にみると、販売不振が4件であった。業種別で見ると、建設業2件、卸売業1件、農林・水産・鉱業1件であった。

大分県内企業倒産の推移



資料) 東京商工リサーチ大分支店